

38-47.

水野弘造, 2010. 韮崎市 (山梨県) の甲虫 (地域甲虫自然史 第 6 号), 日本甲虫学会・地域甲虫自然史シリーズ, 205 pp, 8 color pls.

尾崎俊寛, 2010. 宮城県で採集した甲虫類について (1) -2009 年度の記録-. *Celastrina*, (45): 17-40.

佐々治寛之, 1982. 新潟県のテントウムシ科 (第 2 報). 越佐昆虫同好会々報, (53): 15-26.

佐々木茂美, 2012. 2011 年に採集した大分県西部地方の甲虫. 二豊のむし, (50): 11-24.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】千葉県房総半島南部におけるキベリフトカミキリモドキの発見

キベリフトカミキリモドキ *Aseginia flavomarginata* (Miyatake, 1985) は, 琉球および本土の沿岸部から点々と見つかったカミキリモドキ科の甲虫である。所属は, 他の日本産の既知 3 近似種とともに *Anoxacis* 属から *Aseginia* 属に移動されている (Švihla, 2008)。

本種の生息情報はきわめて乏しく, 既知産地は非常に限定的である。具体的なデータをとまうものとしては, 本州は広島県宮島 (大塚, 2008), 四国は高知県沿岸部 (伊東, 1987), 九州は大隅半島東部の海岸域からの記録 (城戸・小田, 2005), 琉球からは徳之島からの記録 (古川ら, 1990) しか筆者には見出せなかった。

以上のほかに, 図鑑や目録中 (宮武, 1985; 溝田, 1998; 秋山, 2000) に分布地域として示されている情報も加えて整理すると, 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島神津島, 屋久島, トカラ列島宝島, 奄美大島, 徳之島に生息する。また, 高知県では県のレッドデータブックに情報不足種として掲載されている。

産地では概して個体数は少なくないものようであるが, 夏季に海岸砂丘の流木下やハマゴウな

どの植物体上, 人家の灯火に飛来したものが同時に多数得られることもある。南方系で, 沿岸分布を示す種と考えられる。

筆者は本種を以下のように確認しているので報告する。

♂♂, 千葉県南房総市白浜町根本, 18. VII. 2015, 筆者採集・保管。

千葉県初記録で, 現時点での分布の東限の記録にあたる。

日中に, 比較的自然度の高い砂浜海岸の直上部に生育するススキの頂部の葉鞘に潜んでいる個体を確認した。約 50 個体のハイイロカミキリモドキ *Eobia (Eobia) cinereipennis cinereipennis* (Motchulsky, 1866) に混じって得られた。1つの葉鞘にキベリフトカミキリモドキを含む 2~5 個体がかたまっている状態だった。周囲にノブドウやハマユウが咲いていたので, 夜間にこれらに訪花したものが移動し, 日中に潜んでいたのかもしれない。ただし, 同じようなススキの株は付近に少なからずあったが, カミキリモドキ類が集まっていたのは, わずかに 1 株だけだった。

末筆ながら, 種々ご教示をくださった秋山秀雄 (横浜市), 今坂正一 (久留米市) の両氏に心よりお礼を申し上げる。

引用文献

秋山秀雄, 2000. 日本産カミキリモドキ科図解解説. 神奈川虫報, (132): 1-53.

古川陽二郎・松原一正・柴尾晴信・小野雅幸, 1990. 徳之島昆虫採集報告 (1989 年夏期合宿). 鹿児島大学生物研究会々誌 *LEBEN*, (20): 37-46.

伊東善之, 1987. 四国南岸におけるキベリフトカミキリモドキの産地. げんせい, (51): 14.

城戸克弥・小田正明, 2005. 鹿児島県大隅半島の海岸砂丘の甲虫類. *KORASANA*, (72): 27-29.

高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会編, 2002. 高知県レッドデータブック [動物編]: 高知県の絶滅のおそ



図1. キベリフトカミキリモドキとその確認環境。A, キベリフトカミキリモドキ♂ (南房総市産, スケールは2 mm); B, カミキリモドキ類が来集していた海岸部のススキ。

れのある野生動物. 420pp., 高知県文化環境部環境保全課・大塚健之, 2008. キベリフトカミキリモドキ広島県からの記録. 月刊むし, (449): 47.

宮武睦夫, 1985. カミキリモドキ科. 400-409pp., 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛の編著, 原色日本甲虫図鑑(III), 保育社.

溝田浩二, 1998. 日本産カミキリモドキ分布地図: 文献記録の整理, 自然誌研究年報, 3: 89-114. 長野生物研究所.

Švihla, V., 2008. New acts and comments. Oedemeridae. p. 45, Löbl, I. and A. Smetana eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera Volume 5, Apollo Books.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】クリノウスイロクチキムシの記録

クリノウスイロクチキムシ (クリノクチキムシ) *Allecula (Allecula) kurinoensis* Maeda et Nakane, 1988 は、鹿児島県栗野岳で同時に得られた9頭をもとに記載された種である。その後、木元(2004)によって、福島県、茨城県、奈良県の記録が追加されているが、それ以降の記録はほとんどないものと思われる。また、本種はナミウスイロクチキムシ (ウスイロクチキムシ) *A. (A.) bilamellata* Marseul, 1876 に酷似することから、その多くは“ウスイロクチキムシ”として記録されているのではないかと推測される。筆者らは、多くの方々からクチキムシ類標本の提供を受け、その中から以下のように本種の標本を見出すことができたので、記録しておきたい。

北海道の標本は確認できなかったが、青森県北部に分布することから、渡島半島には分布している可能性が高い。本州では青森県から山口県に至るほぼ全域、四国全県、九州もほぼ全域で確認することができた。離島では伊豆大島、三重県尾鷲市桃頭島、壱岐の標本を確認することができた。クリノウスイロクチキムシはナミウスイロクチキムシによく似るが、より大型で、手元の標本では6.5-8.9 mmであった。ただし、原記載には6-7 mmとあり、ホロタイプの実測値は6.6 mmとこの種としては最小クラスの標本である。手元にあるナミウスイロクチキムシ196頭の体長は、5.4-6.8 mmであるから、体長が7 mmを超す個体は、まず本種であると考えられる。体の膨隆はやや弱い。脚はやや長く、後腿節がより細い。♂交尾器は、ナミウスイロクチキムシのように基片基部が大きく曲がらないので長く見える。手元の標本を計測すると、ナミウスイロクチキムシの2.1-2.4 mm (N=7) に対し、本種は2.7-3.1 mm (holotype: 2.9 mm) (N=7) であった。体サイズの違いによる交尾器サイズの差は認められない。交尾器が摘出されている♂であれば、肉眼でも容易にその差を識別できる。記

載ではウスイロクチキムシとの違いに色彩が黄赤褐色であることが挙げられているが、これについては変異が大きく、タイプシリーズ自体が十分に成熟していない個体である可能性が高い。また、同時に毛がやや長いとされているが、これについても個体変異が大きく、区別点としてはあまり有効ではない。ただし、ホロタイプ標本は、たしかに毛が長めである。木元(2004)は、前胸背板の点刻がより大きいことを区別点として挙げているが、これは体サイズの差を反映している可能性がある。

いわゆる「ド普通種」であるウスイロクチキムシと同時に得られることが多いが、それに比べると個体数ははるかに少ない。

なお、北海道大学博物館に保管されているホロタイプの借用を許可していただいた大原昌宏博士、標本を恵与、もしくは貸与して下さった多くの方々(標本データに記入)に感謝したい。

<被検標本>

ホロタイプ: 1♂, “Kurino, Kago- / shima, 7. vi. / '80 T. Nakane // 502 // HOLOTYPE // *Allecula / kurinoensis* / Maeda & m. / Det. T. Nakane // NAKANE Coll. / SEHU JAPAN / 1999 // 0000003962 / Sys. Ent / Hokkaido Univ. / JAPAN [SEHU]” (鹿児島県)

その他の標本: 青森県: 1♂, 外ヶ浜町

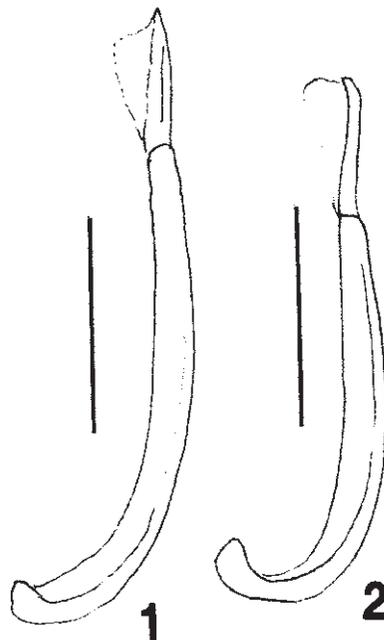


図1. クリノウスイロクチキムシ (Holotype) ♂交尾器;
図2. ナミウスイロクチキムシ (兵庫県産) ♂交尾器. Scales: 1.0 mm.